

平成22年度第1回中原区区民会議協働推進事業検討部会会議録

- 1 開催日時 平成22年9月30日(木) 午後2時～午後4時10分
- 2 開催場所 中原区役所5階505会議室
- 3 出席者
委員 杉野部会長、大下副部会長、岡本委員、寺岡委員、松原委員、村山委員
事務局 山崎副区長、飯塚企画課長、織裳担当係長、宮田担当係長、小木曾主任、橋本職員、園田職員
関係職員 竹田地域振興課長、網島担当課長、田中区民課長、小金井地域保健福祉課長、佐藤保健福祉サービス課長、高山係長、道路公園センター管理課 松下担当係長
- 4 議題
 - (1) 中原区区民会議協働推進事業検討部会要領について(公開)
 - (2) 正副部会長の互選(公開)
 - (3) 会議録確認委員の選任(公開)
 - (4) 平成21年度中原区協働推進事業評価について(公開)
 - (5) 平成23年度中原区協働推進事業について(公開)
- 5 傍聴者 1人
- 6 会議内容
 - (1) 中原区区民会議協働推進事業検討部会要領について
原案通り承認
 - (2) 正副部会長の互選
杉野部会長、大下副部会長を選出
 - (3) 会議録確認委員の選任
岡本委員の選任
 - (4) 平成21年度中原区協働推進事業評価について
事務局 資料2に基づき、平成21年度中原区協働推進事業実施結果について説明
寺岡委員 災害時の避難場所を示す標識があるが、樹木や他の看板の陰に隠れて、見えなくなっているところがある。この標識は区で管理しているのか。
網島課長 総務局危機管理室で所管している。支障がある場合は、区にご連絡いただければ、担当部署に伝えるようにしている。
松原委員 災害時要援護者を把握する際、障害者の把握が難しいとの意見を民生委員から聞いたことがあるが、行政として何か取り組みを行っているのか。
網島課長 災害時要援護者支援制度は、自ら名乗り出た市民を名簿登録する制度である。登録した市民を初回訪問するときには、町内会等の代表者と民生委員が一緒に訪れるようにし、連携を図っている。
寺岡委員 中原区ガイドブックは大きい方が使いやすいのではないのか。
織裳係長 平成22年度から見直しを行っており、今年作成するものは大判の折込式にする予定である。

- 村山委員 小杉駅の大型マンションから民生委員が選任されたと聞いている。区の事業の効果は、出ているのだろう。
- 村山委員 再開発地域のマンションは、30、40代の住民が約7割であり、0～3歳児を持つ世帯が多い。NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントが開いている子育てサロンでは、回数を増やして欲しいと住民からの要望があり、月2回から月3回に増やすこととなった。
中原区は、マンションの建設が相次いでおり、ますます子育て世帯の増加が予想される。中原区が子育て施策を強化することにより、全国的に有名な成功モデルとなるのではないだろうか。是非、引き続き子育て施策に対する取り組みを進めてもらいたい。
- 岡本委員 新たに転入してきた子育て世帯や核家族世帯の母親同士の情報交換に子育てサロンは非常に役立っている。また、子育てサロンでの出会いを契機として、母親同士の近所付き合いも生まれている。
子育てサロンの情報を区はどのように周知しているのか。
- 高山係長 新生児訪問、こんにちは赤ちゃん事業及び乳幼児健診の機会等、様々な場面を通じて、周知を図っているところである。また、出生届の際、配布している子育て情報ガイドブックに子育てサロンの情報も掲載している。
- 松原委員 「子育てのしやすい中原」というメッセージを発信することも必要ではないか。
- 大下副会長 私自身も区が取り組んでいる事業に参加することで、様々な情報を取得できた。父親の育児参加が進んできているが、区が父親の意識を啓発する事業も実施しており、そうした取り組みは高く評価したい。
- 寺岡委員 働いている母親など多忙な区民に対して、子育て事業を情報発信するには、今以上の工夫が必要ではないかと感じる。
- 岡本委員 まちなかに花があるかないかで、まちのイメージがずいぶん変わってくると思う。
区民が花を見たときに何の花かわかるように、プレートを置いてもらいたい。
- 松原委員 区長杯は、どのようなスポーツにいくつ出しているのか。
- 竹田課長 区長杯を贈る事業はあらかじめ決まっているものではない。毎回、各団体の申請に基づき、贈呈している。景気低迷の影響により、スポーツ大会の開催数が減少しており、予算額に対する決算額は低いものとなっている。
- 松原委員 区長杯を贈ることにより、区民のスポーツへ取り組む意欲は増していくものと考えている。今後、区は区長杯をどのように広げていこうとしているのか。
- 竹田課長 区長杯を利用してもらうための周知方法は検討しているところである。
- 村山委員 「なかはら歴史と緑の散策マップ」が新住民には、とても好評である。新住民は地域の情報を欲しがっていると感じている。中原の魅力を発信する事業は是非、引き続き取り組んでいただきたい。
- 寺岡委員 音楽関係の事業で、地域や小中学校で公演できないか。

竹田課長 既存の事業の中では、「In Unity 開催事業」であれば、公演できるかもしれない。今後、関係者を交えて検討していく。

松原委員 窓口業務に従事している職員の接遇研修は行っているのか。

田中課長 区役所サービス向上事業の中で実施している。

岡本委員 小杉駅周辺の放置自転車は減少しているが、他の駅に取り組みを広げていく必要があるのではないか。

放置自転車以外にも、傘差し運転など自転車のマナーは改善の余地があるので、取り組みの拡大を期待している。

松原委員 自転車教室を実施している町会があり、マナー改善の効果が出ていると聞いている。

大下副会長 放置自転車は第2期区民会議でも課題として取り上げたが、市民報告会においても、まだ課題は多いとされていたので、継続した取り組みをお願いしたい。

(5) 平成23年度中原区協働推進事業について

事務局 資料5に基づき、平成23年度中原区協働推進事業計画（案）について説明

村山委員 中原区は平坦であり、自転車が使いやすいまちであるため、近距離でも自転車を使ってしまう。放置自転車を減らすために、おおむね1km程度の近距離の移動は、健康のためにも、自転車を使わないで歩こうというキャンペーンをしてもよいのではないかと。

大下副会長 PTAも防犯マップを作成している。区で「防犯必携マニュアル」を作成するときは、是非連携を取ってほしい。

綱島課長 安全・安心まちづくり地域推進協議会にはPTA協議会の会長も加わっているので、情報交換をしながら事業を進めていきたい。

松原委員 区が防犯への取り組みをするにあたっては、警察と連携しているのか。

綱島課長 安全・安心まちづくり地域推進協議会には、中原警察署も加わっており、情報交換をしながら、事業を進めている。

岡本委員 子育てを支援する人材がなかなか集まらないと聞いている。区としては、どのように養成していく計画なのか。

飯塚課長 子育てが一段落した区民が子育ての支援者にまわれるように、子育て支援者養成事業に取り組んでいく計画である。

松原委員 来年度増える予定の子育てサロンは、どこの地区か。

飯塚課長 玉川地区である。

寺岡委員 中原区はものづくりの工場がとても多い。ものづくりの魅力を発信する事業に取り組むことはできないか。

飯塚課長 経済労働局との棲み分けが難しいところである。また、どのように協働の仕組みを取り入れるか難しいところである。今後、検討していきたい。

村山委員 事業全体にいえることだが、区民ボランティアに対して、区が表彰する仕組みが必要ではないだろうか。

杉野部会長 ボランティアの担い手が年々減っている。ボランティアがやりがいや達成感を感じられるようにした方がよい。

飯塚課長 区や市が表彰する制度は、様々な部署で所管している。区としては、表彰制度を一度整理する必要があるのではないかという議論が1年ほど前にあった。もっともな指摘であると考えており、今後も検討していく必要がある。